学び合い，高め合う協同学習の授業づくりをめざして

―ワークシートと話し合い活動の工夫―

教職実践基礎領域
小野　未遥

はじめに

「私たちはいずれ社会へ進む子どもを育てている。学校は小さな社会。社会に出たら，誰も教えてくれないから，小学校で学ぶ必要がある」

連携協力校においてお世話になった学級担任が私にこう言った。経済産業省によると，社会で求められる能力は,「前に踏み出す力」,「考え抜く力」,「チームで働く力」など様々なものがある[1]。変化の激しい社会へと進んでいく児童は，社会に出る前に，“小さな社会”でこれらの能力を育てる必要がある。

「チームで働く力」の中に，「多様な人たちと共に目標に向かって協力する力」がある。その力を伸ばすためには，コミュニケーション能力が必須であり，集団行動により養われるため，小学校で身に付けるべき能力の一つであると言える。

本稿では，児童の実態を踏まえ，児童の発信力や傾聞力の向上を目的とした実践研究について報告する。特に，学び合い，高め合う協同学習を通した授業づくりに焦点を当てる。

Ⅰ　主題設定の理由

１　今日の教育課題

OECD の DeSeCo プロジェクトが提案した「キー・コンピテンシー」という教育課題に関心をもっている。まず，コンピテンシーとは知識や技能だけではなく,「心理的・社会的な情報」を活用して，様々な課題に対応することができる力のことを指す。その中で，キー・コンピテンシーは三つのカテゴリーに分けられており，その内容が【表１】である。

カテゴリー	具体的な内容
①社会・文化的，記述的ツールを相互作用的に活用する能力	○言語，シンボル，テクストを活用する能力 【PISA 調査・読解力，数学的リテラシー】 ○知識や情報を活用する能力 【PISA 調査・科学的リテラシー】 ○ テクノロジーを活用する能力
②多様な集団における人間関係形成能力	○他人と円滑に人間関係を構築する能力 ○協調する能力 ○利害の対立を御し，解決する能力
③自立的に行動する能力	○大局的に行動する能力 ○人生設計や個人の計画を作り実行する能力 ○権利，利害，責任，限界，ニーズを表明する能力

【表 1】キー･コンピテンシーのカテゴリーと具体的な内容[2]

キー・コンピテンシーの三つのカテゴリーの中でも，主に②の人間関係形成能力に注目した。

協調する能力や円滑に人間関係を構築する能力は，社会や世界が求めているコミュニケーション能力と言える。したがって，小学校の集団行動では社会性を身に付け，自分の意見を伝える力，友達の意見を聞く力，自分と友達の意見の違いを踏まえて，自分の考えをより深める力を伸ばしていかなければならない。

社会科の授業における学習の形態ついて，山田勉(1988)は「社会科が重視してきた学習活動に協同学習がある。…協同学習にしろ，集団思考にしろ，そこには必ず協調と対立がある。…社会科の授業はこのように，自分とは違う人間，自分とは立場を異にする人間，自分とは考えの違う人間を絶対必要とし，この上なく尊重するものなのである[3]」と述べている。このように，社会科の授業では，話し合い活動を通して他の人と自分との意見を比べたり，対立したり，協力したりすることが求められる教科であることがわかる。以上から人と関わることを必要とする社会科の授業を通して，コミュニケーション能力を育むことができると考える。

以上の教育課題から,社会科における関わり合いや意見の交流を通し,学び合い高め合う協同学習の授業づくりを研究テーマとした。

２　児童の実態

生活面では，児童同士の目立ったトラブルは少なく，落ち着いている。休み時間になると外で元気よく遊ぶ姿が見られることから，活発な児童が多い。また，単学級ゆえに，高学年は低・中学年である児童の名前を把握しており，学年の枠を超えてのつながりがある。廊下などで高学年の児童が低学年の児童に話しかけていたり，部活動・委員会などで中学年の児童が高学年の児童を頼っていたりする姿も見られる。

また，学習面では，全学年が真面目に授業を受ける様子が観察できた。授業内で活動をする際，みんなで活動する時間と自分で考える時間の区別ができる児童である。

しかし，授業中に意見交流をする際，自分と友達の意見を比較したり，友達の意見を聞いて自分の考えに付け足ししたりできる児童は少ない。それに対し，自分の意見が言えなかったり，自分の意見を述べるだけで終わってしまったりする児童が多く見受けられた。特に社会科の授業では，板書をそのままノートに写している児童が多く，資料から自分の意見を読み取ったり，根拠をもって自分の意見を述べることができたりする児童が少ないこともわかった。

Ⅱ　研究の目的

１　めざす児童像

第Ⅰ章を踏まえ，話し合い活動を通して人間関係形成能力を育成するために，小学校社会科の授業を工夫し実践する。そして，以下の二点をめざす児童像とする。

○　根拠をもって自分の意見を伝えることができる児童
○　友達の意見を踏まえて自分の考えを表現できる児童

２　研究の構想

自分の意見や考えを相手に伝えたり，友達の意見を聞いたりするには，全員で学び合い，高め合うことができる意識を作る授業が必要である。そこで，協同学習を基盤とした単元構想を意識して研究を進める。

杉江修治(2011)は，協同学習のことを「『学級のメンバー全員のさらなる成長を追求することが大事なことだと，全員が心から思って学習すること』…『学び合い・高め合い・認め合い・励まし合う』学習活動を協同学習だと言うこともできるでしょう[4]」と述べている。

また，石井順治(2012)は，学び合いについて「『学び合い』とは一方向に教員から教えられるものではなく，互いの知恵と考えを交わすことによって学ぶものですから，行為の主体は学ぶ児童にあるのです[5]」と述べている。このように，児童が学び合いを行う上で，集団での話し合いが必要になることが分かる。

上記の理論を参考に，“学び合い”と“協同学習”を踏まえ，重要だと考えた二つの視点を中心に，実践する。

①　自分の意見を相手に伝えることを大切にする
②　話すことより，聴くこと・つなぐことを大切にする[6]

①について，話し合い活動を行う場合，まずは自分の意見や考えを相手に伝える力が必要になる。杉江修治(2011)は，学び合いを促す工夫の一つとして，「グループでの話し合いに先立って，個人で考える時間を適切にとる[7]」と述べている。

このように，話し合い活動を行う前に，自分自身の意見や考えをまとめる時間を取ることで，話し合い活動がより活発になると考える。自分の意見や考えをまとめる時に活用したい手だてとして，ワークシートがある。

豆田幸彦はワークシートについて「ワークシートのよさは，児童の意欲や思考や気付きなどを自分自身や他の人に見える形にできること[8]」と述べている。また，豆田幸彦が考える具体的なワークシートの良さが，【表 2】である。

・　ワークシートに表すよさについて具体的には自分の思いや願いを明確にすることができ，これからの学習の見通しを確かめることができる。
・　表すことによって，思考することができたり，自分の思考の過程を確かめたり，修正したりすることができる。
・　表したワークシートを活用して，伝え合うことにより，活動の見通しに生かしたり，友達の考えや気付いたことから，次の自分の活動へ生かしたりすることができる。

【表 2】豆田幸彦が述べるワークシートの具体的な良さ

このように，自分の頭の中だけで考えを完結するのではなく，ワークシートを活用することで，視覚的に表現できるようにする。これにより，様々な児童の考えを抽出したり、自分の考えを修正したりすることができると考える。また，ワークシートを作成することで，知識を学び，自分との意見や考えを引き出す手だてとして活用できると述べている。意見や考えを記述するだけでなく，それらを記録する手段としても活用するこができる。さらに，全員が記述することができるワークシートを作成することで，個々が意見や考えを表現できる場を作ることができると考える。

②について，“指導技術力の開発[9]”の授業で，小幡肇は「児童の聞く力を伸ばすことが一番難しい」と，同様の意見を述べていた。サポーターの児童の様子を観察し，著者も“聞く力”を育むことは難しいこと学んだ。本研究では，話し合い活動を行う際，自分の意見を伝えるだけで終わるのではなく，友達の意見を聞く力も育てていくことを目標とする。聞いた意見を自分の意見と比べたり，自分の意見や考えに関連させたりすることで，自分の意見や考えを深化することができ，話し合い活動をより深めることができると考える。話し合い活動で聞く力を伸ばすことは，人間形成能力につながる傾聴力を伸ばすことができると考える。

以上①②の視点を中心とした，学び合い高め合う協同学習の実践を行う上で，話し合い活動とワークシートはつながりをもたせなければならないと考える。

児童に自分の意見や考えを記述させることで，話し合い活動で友達に意見を伝えることができるようになると考える。このように，つながりをもたせることで，自分の考えを相手に伝えることが難しい児童でも，友達に意見を伝えることができるようになる。これは，人間関係形成能力につながる発言力を伸ばすことができると考える。また，話し合い活動を行う際，友達の意見を聞き，自分の意見や考えを見つめ直し，ワークシートに記述させる。このような活動を取り入れることで，児童の学びを深くすることができ，学び合い高め合う児童像に迫ることができると考える。

以上から，ワークシートと話し合い活動が目指す児童像への必要な手だてである。

Ⅲ　研究仮説

１　ワークシートの工夫

授業中に提示・提案する教材とワークシートにつながりをもたせることができれば，根拠をもって自分の意見や考えをもつことができると期待する。

児童に意見や考えをもたせる工夫として，ワークシート内に資料やイラストを取り入れ，それらから感じたことや考えたことを記入できるワークシートの作成を行う。また，ワークシートに理由付けの文を挿入したり，どの資料から考えたのかをワークシートに記述させたりすることで，根拠をもつことができると考える。

2 話し合い活動の工夫

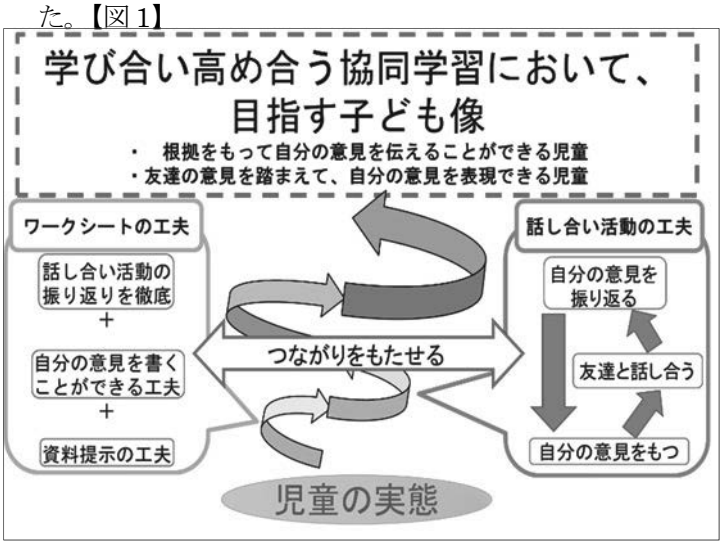
自分の意見を伝え，相手の意見を聞くことができれば，自分の意見や考えを振り返ったり，自分と友達の意見を比べたりすることができると期待する。

学級には「見る，リアクション，うなずき」という約束がある。友達の話を聞き，リアクションを取ることを伝え，まずは友達の意見を聞くことを徹底していく。また，自分の意見を記述したワークシートを用いて，友達と話し合い活動を行う。同時に，友達の良いところや疑問に思ったところを伝えたり，質問したりすることで，単なる話し合いだけで終わることのないようにする。また，振り返る活動でワークシートに記述させることにより，自分の意見と友達の意見を改めて比べたり，自分の意見を見つめ直したりすることで，さらに自分の意見を深めることができると考える。

そしてワークシートと話し合い活動の工夫の仮説を通し，最終的な研究の仮説として，以下を設定した。

ワークシートと話し合い活動の相互をつながりあわせることができれば，伝える力と聞く力を育成でき，学び合い高め合う児童に迫ることができるだろうと期待する。

先述した研究仮説を基に，以下の研究構想図を作成した。【図1】



【図1】研究構想図

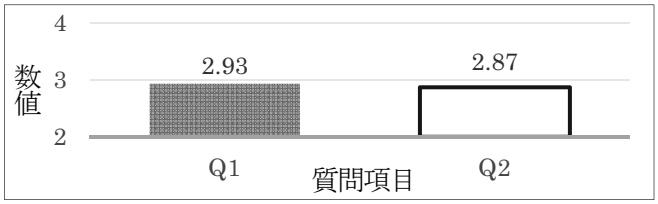
Ⅳ 研究に関わる授業実践①

1 年度初めのアンケートから見る児童の実態

四月当初，配属された学級の児童に，教科全般にわたってのアンケート[10]を実施し，集計した。その結果，

Q1 資料から感じたことや思ったことをワークシートに記述することができるか

Q2 自分の考えを，理由をはっきりさせて発表することができるか，の二点に着目した。【表2】



【表3】 事前アンケート結果

Q1の質問に対して，1と2の数字に丸を付けた児童は10/31 人であった。数値は低くないが，資料から感じたことや思ったことを，ノートやワークシートに記述できる児童とそうでない児童には差があることが考察できた。

Q2の質問に対して，3に記入した児童は14/31 人であった。自分がなぜその答えになったのか，理由をはっきりさせて発表すること自体はできるが，毎回出来るようではない児童が半数であることが考察できた。

以上から，年度初めのアンケートを参考に，児童の実態を踏まえ，教師力向上実習の計画を立てた。

2 教師力向上実習Ⅰの単元計画

対象：愛知県名古屋市立Ａ小学校

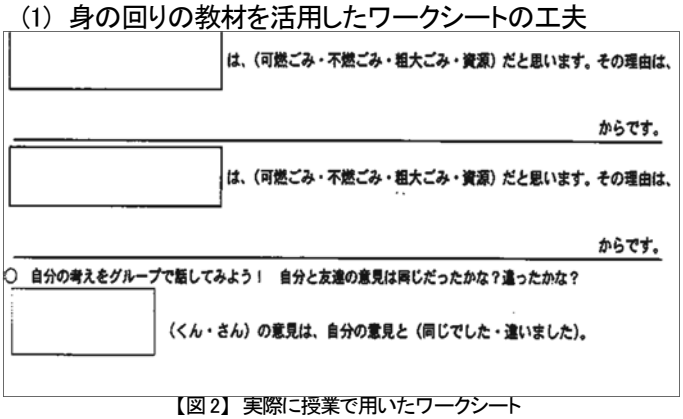
学年：第４学年Ａ組　35 人

本時(15 時間完了)	社会科の授業実践
第１時	ゴミの分別をする
第２時	名古屋市のごみの量を知る
第３時	ごみのゆくえを考える

【表4】教師力向上実習Ⅰ授業計画

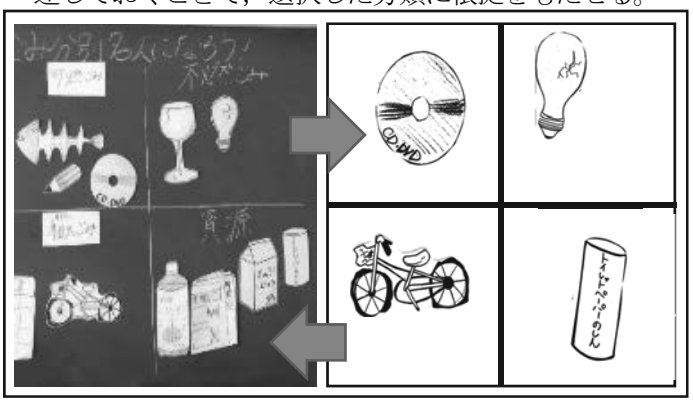
3 教師力向上実習Ⅰでの研究の方法

(1) 身の回りの教材を活用したワークシートの工夫



【図2】実際に授業で用いたワークシート

【図 2】のワークシートを作成し，身の回りにある物をごみとして分別する際に，可燃ごみ，不燃ごみ，粗大ごみ，資源の４つに分類させ，なぜその分類にしたのかを根拠をもって記述させる。また根拠が分かるように，“その理由は～からです”という文をワークシートに記述しておくことで，選択した分類に根拠をもたせる。



【図3】板書とワークシートのつながりの工夫

また，【図3】のように，手元にある資料と板書のつながりをもたせ，意見や考えをより引き出すようにする。

⑵ 「教え合い」ではなく,「高め合う」話し合い活動の工夫

児童の考えをゆさぶる教材として，ＣＤ・ＤＶＤとトイレットペーパーの芯を用意し，その二つを話し合い活動の議題とする。ワークシートを用いて自分の意見を友だちに伝え，友だちの意見を聞く。その際に，グループでその二つの物がどの分類になるのかを考える。話し合いを通じ，答えを一つに絞らせることで，教え合いではなく，学び合い高め合う話し合い活動を行う。また，自分がどのように意見が変容したのかをワークシートに記述する。この話し合い活動を通して，自分の考えを伝える力と聞く力を育てる。

４　検証方法

⑴　身の回りの教材を活用したワークシートの工夫

・自分の生活を振り返りつつ予想を記述することができた児童とそうでない児童を数値化し，分析する。

⑵　「教え合い」ではなく,「高め合う」話し合い活動の工夫

・机間指導から，話し合い活動の様子を観察する。
・話し合い活動後，自分自身の答えが変化したのかを数値化し，分析する。

⑶ ワークシートと話し合い活動の工夫のつながり

・二つの結果から授業を振り返り，分析する。

５　教師力向上実習Ｉの授業実践の結果と考察

⑴ 身の回りの教材を活用したワークシートの工夫の結果

導入段階である一時間目に，一人１セットずつ，教材を準備し，活用した。ワークシートには，自分で選択した答えに理由を書くことができたのは，34/35 人であった。その中で，自分の生活を振り返ったり，自分の知識を活用して考えを述べたりすることができた児童は７人であった。単に「リサイクルできそうだから。」という予想だけでなく,「トイレットペーパーの芯は，お父さんが資源に分類していたからです」「紙はもともと木で出来ているから，また資源になると思ったからです」など，自分なりの理由をもたせることができた。

⑵ 身の回りの教材を活用したワークシートの工夫の考察

身の回りにある素材を活用することで，児童の興味・関心を引き出せることができた。また，理由付けの文章を付け加えたことで，自分の生活を振り返ったり，知識を活用し理由を記述したりすることができた。

しかし，ワークシートに記述する分量が多く，時間内に記述することができなかった児童もいた。児童に書かせる量を推敲し,ワークシートを作成する必要があった。

⑶ 「教え合い」ではなく,「高め合う」話し合い活動の工夫の結果

友達の意見に対し,「私の家はどこに捨てているかな？」「お母さんが，可燃ごみって言っていたと思う」などの話し合いが観察できた。自分が普段行っているごみの分別や家庭での行動を思い返して，自分の意見を友達に伝えることができた。また，話し合い活動後，意見が変化した児童は 5/35 人であった。変化した理由を記述している児童は０人であった。

⑷ 「教え合い」ではなく,「高め合う」話し合い活動の工夫の考察

視点を絞った教材の提示により，より深く一つの議題に対して仲間と活発に話し合うことができた。しかし，議論が進むにつれ,「自分の意見が絶対合っている」という様子が見受けられた。この様子から，学びを高め合うことはできなかったと考える。高め合う話し合い活動にするための議題として，何を話し合わせるのかを明確にしておく必要があった。

⑸ ワークシートと話し合い活動のつながりの結果

話し合い活動後，意見が変化した児童は５人であったが，なぜ変化したのかが記述していない児童がほとんどであった。

⑹ ワークシートと話し合い活動のつながりの考察

ほとんどの児童が意見を記述することができ，話し合いも活発になり，二つのつながりが有効であったと考える。しかし，自分の選択した答えに，理由を記述できなかった児童が多かった。そのため，話し合い活動後に振り返る時間や，より具体的な理由を記述する時間を設ける必要があった。

Ｖ　研究に関わる授業実践②

１　教師力向上実習Ⅱの単元計画

対象：愛知県名古屋市立Ａ小学校
学年：第４学年Ａ組　33 人
授業単元：きょうどを開く　(全９時間完了)

時数	小単元名	学習内容
第１時	郷土に出会う	○　きょうどを開いた人々 名古屋港の昔と今の絵を比べ，違いを読み取った後，単元を通しての学習問題を設定する
第２時		○　津軽文左衛門と名古屋南部１ 津金文左衛門がなぜ新田開発を行ったのかを学び，干拓を進めていった方法を予想する
第３時	郷土をさぐる偉人①	○　津金文左衛門と名古屋南部２ 津金文左衛門の新田開発から，津金文左衛門の努力や工夫を知り，新田開発の苦労を学ぶ
第４時		○　津金文左衛門と他者の思い１ 今までの学習を基に，人々の思いを資料から読み取り，会話を予想させる
第５時		○　津金文左衛門と他者の思い２ 実際にどのような会話が行われたかを想像し，ロールプレイングを行う
第６時	郷土をさぐる偉人②	○　奥田助七郎と名古屋港１ 奥田助七郎の港づくりを学び，港をつくった理由や目的を理解し，感想をペアで伝え合う
第７時		○　奥田助七郎と名古屋港２ 港づくりの方法や様子から工夫や努力を理解し，奥田助七郎が及ぼした影響を考える
第８時		○　今までの学習の振り返り 津金文左衛門と奥田助七郎を学び，二人のこれまでを振り返り，まとめる
第９時	学習のまとめ	○　これからの名古屋南部 人々の生活の向上と名古屋南部の発展について考え，表現する。

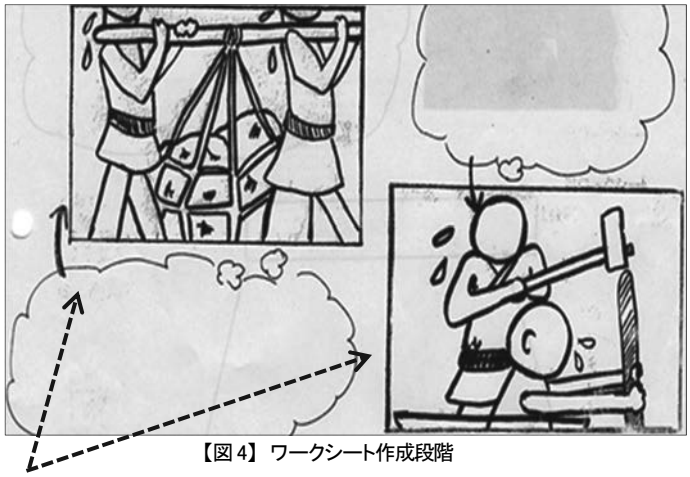
【表５】単元を通しての授業の流れ

単元では主に第２時，第５時，第９時を重点に，単元計画を立てた。単元を通して児童が考える場面を設定し，大きな話し合い活動を設けることで，児童の思考が途切れることがないようにした。【表５】

２　教師力向上実習Ⅱでの研究の方法

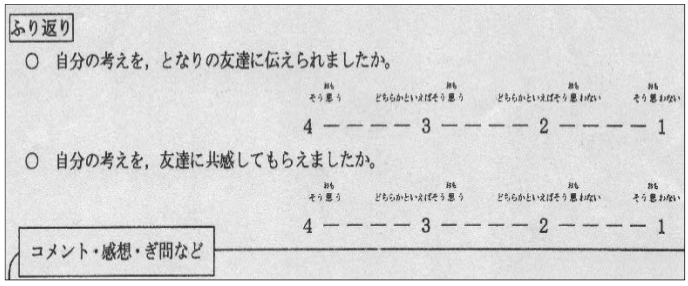
教師力向上実習Ⅰの課題を踏まえ,教材研究・教材の良さを生かしたワークシートと，児童の考えを高め合う話し合い活動の具体的な計画を述べる。

(1) 教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫



【図４】ワークシート作成段階

【図４の】ように，想像しにくい場面や考えてほしい場面には，児童が自分の意見を記述しやすいように，絵を描いて想像できるように工夫をする。また，児童が記述する量を推考し，適切に時間を設けるよう工夫する。



ふり返り

○　自分の考えを，となりの友達に伝えられましたか。

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4	3	2	1

○　自分の考えを，友達に共感してもらえましたか。

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4	3	2	1

コメント・感想・ぎ問など

【図５】話し合い活動の振り返り記入欄

【図５】のように，ワークシートの最後に，話し合い活動の振り返りの記入欄を設ける。このように，話し合い活動とワークシートにつながりをもたせる工夫をする。

(2)　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

歴史的な単元を通して，過去の偉人の工夫したことや,当時の人々がどのような会議をしたのかを考えることを話し合いの議題とする。それ以外に，各授業の中に少なくとも一回は，友達の意見を聞いたり，自分の意見を伝えたりする時間を作り,友達と交流する場を設ける。その際，自分の意見を伝え，友達の意見を聞く時間を十分に設け，話し合い活動に深みをもたせる工夫を行う。

自分の意見を記述した後に，話し合い活動を行う。さらに,感想をワークシートに記述し,意見の交流を行う。こうすることで，話し合い活動を振り返り，ワークシートと話し合い活動につながりをもたせる工夫を行う。

３　各授業実践の概要計画

ここでは，上記の工夫を活かし，手だてアは教材研究･教材の良さを生かしたワークシートの工夫について，手だてイは児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫について記述する。

(1)　授業実践①

津金文左衛門と名古屋南部（研究授業２／９）

○　目標

新田開発の目的を学び，海から陸へどのように変えたのかについて，考えることができるようにする。

○　学習内容

新田開発の目的を学んだ後，昔の宮の浜の絵を見て堤防があることに気付く。昔の人たちは，どのようにして堤防を作ったのかを考える。

手だてア…　堤防に使う道具をイラストにし,ワークシートに入れることで，児童の意見を引き出す

手だてイ…記述した意見を基に，話し合い活動を行う。友達の意見を聞いて，自分の意見に付け足すようにする

(2)　授業実践②

津金文左衛門と他者の思い（研究授業５／９）

○　目標

人物の立場に立って，セリフに表現することができ，干拓地について自分の考えを記述することができている。

○　学習内容

新田開発を行うために賛成派と反対派に意図的に分かれ，セリフを考える。まずは一人で考えた後，セリフをペアで深め合い，その後，グループで新田開発会議を行う。まとめとして，津金文左衛門の頌徳碑の意味と伊勢湾台風の被害にふれる。埋立地の利点・欠点の視点から，ゆさぶりをかけることで，先人の業績への思いをさらに深める。

手だてア…文章資料から自分でセリフを考え,記述する。ペアでセリフを深めつつ，ワークシートに記述する。ゆさぶりをかけた後，自分がどのように考えたのかを記述し，意見交流をする。

手だてイ…自分で考えたセリフを参考にしつつ，ペアでよりセリフを深める。その後，考えたセリフを基に，ロールプレイを行う。ゆさぶりをかけた後，友達との意見の相違に気付き，自分の考えを見つめ直す。

(3)　授業実践③

これからの名古屋南部（研究授業９／９）

○　目標

これからの人々の生活の向上と名古屋港の発展について考え，表現することができるようにする。

○　学習内容

名古屋港がもっと発展するために，名古屋港開発プロジェクト企画書という企画書を考える。自分が考えたオリジナルの建物や施設を絵と言葉で表現し，友達と伝え合う。

手だてア…名古屋港プロジェクト企画書を記述し，なぜその施設なのか，理由も記述する。

手だてイ…企画書の交流から，友達の意見やよいところを，自分の計画書に取り入れる

４　検証方法

⑴ 教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

・自分の意見が記述できているかを分析し，数値化する。

・記述した内容から，自分の答えに理由付けが出来ているのかを分析する。

⑵ 児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

・机間指導から，話し合い活動の様子を観察する。

・話し合い活動後，児童の答えがどのように変容したのかをワークシートから分析する。

⑶ ワークシートと話し合い活動のつながり

・二つの結果と考察から授業を振り返り，分析する。

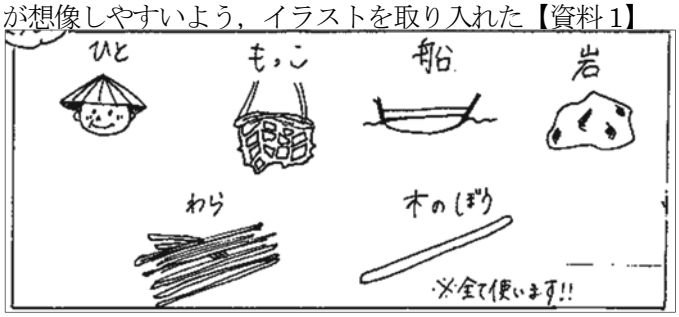
５　授業の実践と考察

⑴　授業実践①　（指導計画　2／9）

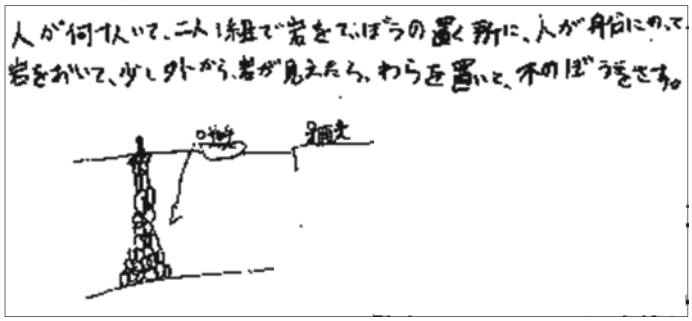
議題：昔の人はこれらの道具を使って，どのように堤防をつくったのだろう

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

堤防をつくるために使用した道具を提示する際，児童が想像しやすいよう，イラストを取り入れた【資料１】を入れた。そうすることで，児童は想像しやすくなり，全員が自分の意見や考えを書くことができたと言える。また，約半数は，【資料 2】児童 A のように，文章や絵を描き，自分の意見をまとめることができた。



【資料 1】実際に使用したワークシートのイラスト



【資料 2】児童Aが考えた堤防をつくるための手順

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

自分の考えをまとめてからグループで話し合わせる場を設けた。話し合い後に，振り返る時間を設けた。

⑵　授業実践①の取組

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

与えられた議題に対し，全員が自分の意見を記述することができた。その中でも，文章と絵を用いて具体的に記述できた児童が 13/30 人，意見が記述してあっても，途中書きであったり，まとまっていなかったりした児童が 17/30 人であった[11]。

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

話し合い活動の際，自分の意見をはっきりと言える児童とそうでない児童がいた。友達の意見に対し，「そういう使い方もあるね」「私は気付かなかった」と伝え合う児童の姿が観察できた。また，「わらはどうやって使うんだろう？」「船に敷き詰めて使うんじゃないのかな？」と言った，わからない児童に対し，提案したり，助言したりして，意見を高め合う発言を観察することができた。

⑶　授業実践①の考察と課題

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

ワークシートに資料やイラストを取り入れたことにより，児童が遠い過去の人物に興味・関心を引き出すことができた。その上，提示した課題について考える場面では，当時の具体物を想像できる【資料１】のイラスト

その一方，約半数の児童は，自分の考えが途中書きであったり，まとまっていなかったりした児童に対し，机間指導を行い，考えを促す必要があった。

また，イラストを見て，「これって何個まで使って良いの？」という質問が多数挙がった。原因として，イラストに載せた絵は一つずつであったため，児童は“一つしか使ってはいけない”という思考の流れをつくってしまった。イラストに載せる絵は一つだけではなく，複数にして載せる必要があったと考える。

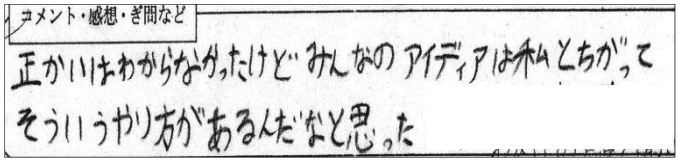
イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

【資料 1】のワークシートのイラストから，組み合わせて考えさせることにより，児童の多様な意見を引き出すことができた。また，グループ活動の際，自分の意見がまとまっていない児童に対し，同じグループの児童が助言をしたり，提案したりする姿が観察できた。

しかし，話し合い活動の際に，友だちの意見を聞くだけになったグループもあった。自分の意見や友だちの意見を伝え合って終わってしまい，そこからさらに深めることができなかった。そういったグループに対し，思考を促す言葉や働きかけも必要であったと考える。

⑷　ワークシートと話し合い活動のつながり

振り返りの際，【資料 3】児童Ｂは友達と自分の意見を聞くことができた。これはワークシートの活用により，多様な意見を引き出すことができたこと，多様な意見を通して話し合いが行われたことから出た意見である。この授業での二つのつながりは，学び合い高め合う児童像に迫ることができたと言える。



【資料 3】児童Ｂの記述した自分の意見

しかし，児童Ｂのような感想を記述した児童は多くなかった。話し合いが停滞してしまったグループや，一人だけが話してしまうグループもあった。話し合いが円滑に進むグループと、そうでないグループに差があるため、発言する力と聞く力をより伸ばすことが課題である。

(5)　授業実践②（指導計画　5／9）

議題：新田開発会議を行うために，セリフを考えよう

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

前時に決めた役割によって，異なるワークシートを準備し，セリフを考えた。また，人物のイラストを描き，吹き出しに書けるように工夫した。

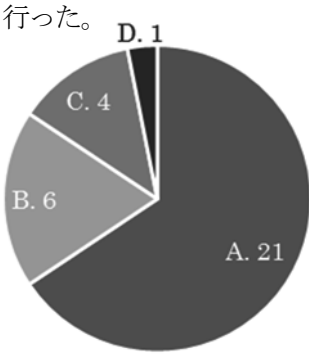
イ　児童の考えを高め合う話し合いの工夫

個人で考えた後，同じ考えの共感を図るペアでの話し合い活動の場を設定した。その後，4 人グループの新田開発会議での活動を行った。その後，振り返りの時間を設け，新田開発会議を見つめ直す。

(6)　授業実践②の取組

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

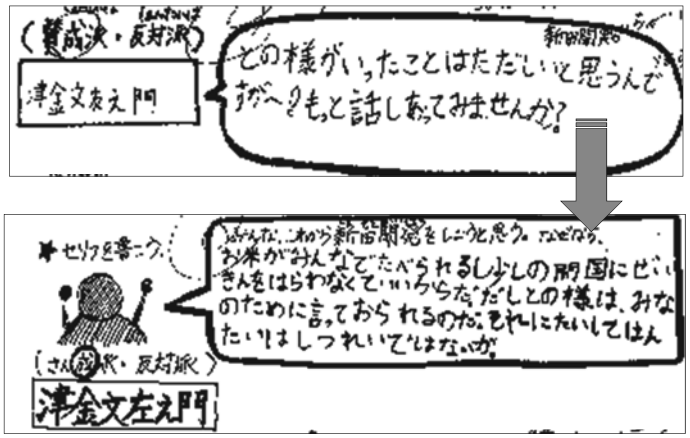
文章資料から，全員がセリフを一人で考えることができた。その後，ペアでセリフを深め合う話し合い活動を行った。



○ペアでセリフを深める話し合い活動を行った後の児童のグラフ（人）	
A	よりセリフが詳しくなったり，文章資料から根拠をもって記述ができたりした児童
B	一人で考えたセリフとセリフが変化しなかった児童
C	一人で考えたセリフより根拠が薄れてしまった児童
D	無記入

【表 6】話し合い活動後のセリフの変容

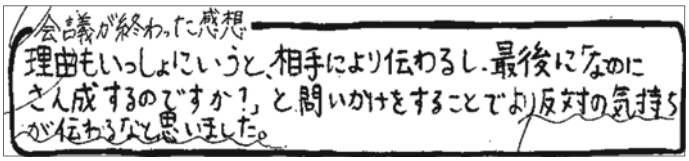
【表 6】グラフ A 内でのセリフの例として，【資料 4】児童 C のように，抽象的なセリフから，具体的なセリフへと変容した児童が多かった。



【資料 4】児童 C のように，話し合い活動前後でセリフが異なる

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

賛成派・反対派に分かれ，ペアでセリフを深め合う話し合い活動では，「こうやって言ったらどうかな？」「絶対反対意見を通そう」「セリフが被らないようにしよう」という工夫も観察できた。また，文章資料やから根拠につながる事象を取り上げ，セリフを考えたペアも観察できた。根拠のあるセリフを考えた児童Dの感想が【資料 5】である。児童Dは，セリフの最後に「～どうですか？」と付け加える工夫をすることができた。



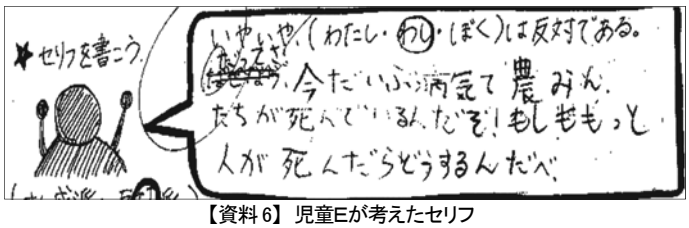
【資料 5】根拠のあるセリフを考えた児童Dの感想

(6)　授業実践②の考察と課題

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

前時までの文章資料を基にしたワークシートや，役割ごとにオリジナルのワークシートを渡したことは，全員がセリフを書けたことから，効果的であったと考える。

また，【資料 6】児童 E のように，文章資料から当時の偉人の気持ちの部分も読み取り，記述することができた児童もいた。



【資料 6】児童Eが考えたセリフ

その時代の背景を自分なりに考え，「きっと，こんな口調だったと思う」という児童の素直な心情が，セリフに表れた。児童 E 以外にも，セリフの口調を工夫する児童が多く観察できた。

さらに，児童が分かりやすいように，農民と武士に分けてワークシートを作成し，完成したときには会話が完成し，自分の考えを深めることができた。【資料 7】

【資料 7】実際に授業で記述したワークシート

しかし，教師側が予想する以上のセリフを考えた児童が多く，記述が時間内に終わらなかった。授業後に教師がワークシートを回収し，セリフをコピーするなど臨機応変に対応する必要があった。

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

教師が意図的に賛成派・反対派に分けたことにより，役割の立場を踏まえ，セリフを考えることができた。ペアでの話し合い活動では，児童の発言から当時の人の気持ちに寄り添うことができたと考える。また，新田開発会議では，当時の口調や様子を思い浮かべながら発表することができた。

しかし，意図的に立場を固定したことにより，意見を記述できなかった児童もいた。グルーピングを工夫することで、意欲的視点がさらに深まりのある話し合い活動になったと考える。

⑺　ワークシートと話し合い活動のつながり

つながりをもたせたことで，新田開発会議でセリフを言い終わっても，まだ記述していない根拠を使用し反論したグループがあった。これは，自分の意見を伝える力や聞く力を育てることができたと考える。一方で，振り返りの際，記述できなかった児童が多かった。新田開発会議に時間を取りすぎてしまい，最後の振り返りの時間が十分に取れなったため，計画段階から配慮する必要があった。

⑻　授業実践③　（指導計画　9／9）

議題：名古屋港開発プロジェクト企画書を書いて，友達と意見交流しよう

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

レジャー施設の種類，対象者，設置場所を児童自身に選択させ，絵と言葉で表現できる工夫をした。

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

発表の原稿をワークシートに組み込むことで円滑に話し合いが進むよう工夫した。また，友達の意見やよいところを自分の意見に取り入れるように促し，意見を深める工夫を行った。

⑼　研究授業③の取組

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

名古屋港開発プロジェクト企画書は，全員が書くことができた。その中でも，名古屋港の地形を利用していたり，名古屋港に関連しながら意見を記述できたりした児童は 8/33 人であった。また，3/33 人の児童は，絵か言葉のどちらか一方しか記述がされていなかった。

名古屋港開発プロジェクト会議の後，友達の意見や良いところを取り入れた児童は 15/33 人であった。

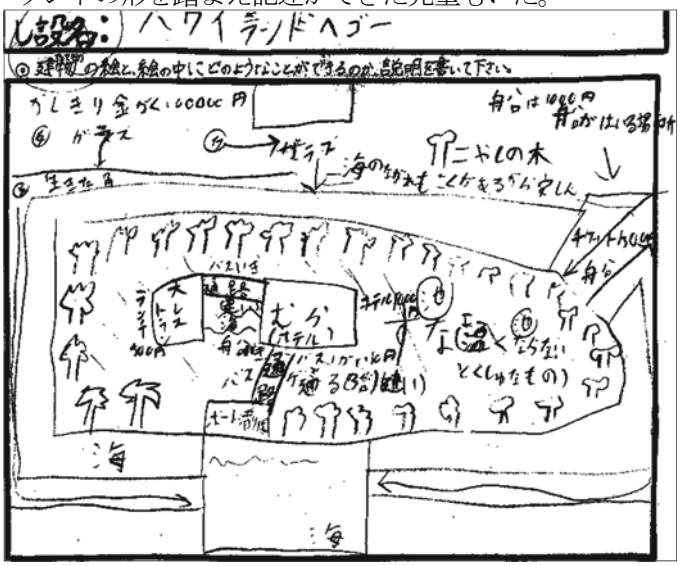
イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

グループの友達に，自分の企画書を提案する姿が見られた。ワークシートに発表する際のセリフを載せることで，円滑に発表が進んでいる様子が観察できた。また，友達から「お土産があるといいかも！私の企画書も，帰るときにお土産渡すんだよ」と提案され，自分の企画書に書き加えた姿が観察できた。このように，友達の意見や考えを聞き，それらを自分の企画書に合うか考える姿が観察できた。そして，話し合い活動により，約半数が友達の意見を取り入れた。

⑽　授業実践③の考察と課題

ア　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

ワークシートにさまざまな情報を提示し，そこから選択させることで，児童の考えを引き出しやすくすることができた。レジャー施設の中でも，場所や対象者によって施設を考えるので，意見の多様性を引き出すことができた。また，オリジナルの施設ということであったが，絵や文章で自分の想像する建物を考えることは，名古屋港の発展を考えることにつながった。【資料 8】児童 F は「忙しくてハワイへ行けない人たちのために，ここにハワイランドをつくる」という海外に目を向け，ポートランドの形を踏まえ記述ができた児童もいた。

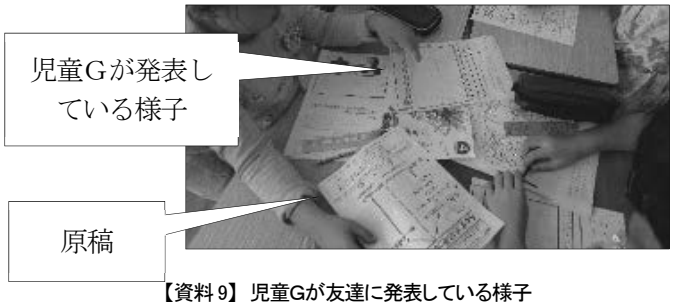


【資料 8】児童Fの企画書

しかし，絵と言葉で表現できるようにするワークシートの工夫を行ったが，絵は描けても説明が書けない児童，その逆の児童もいた。教師が簡易のイラストや説明文を用意する必要性あったと考える。

イ　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

グループで企画書を交流する話し合い活動を取り入れ，友達の企画書を楽しそうに聞く姿が見られた。また，【資料 9】児童 G が発表している際に，友達の企画書に「ここはどうなっているの？」という質問をしていたり，「私は思いつかなかった」という感想を伝えたりしていた。「もっとこうしたほうがいい。」という友達の意見を取り入れた児童が約半数いたため，友達の意見を聞くことができたと考える。その様子から，意見が多様になる工夫を行うこと，友達の意見に質問や提案ができたので効果的であったことを学んだ。

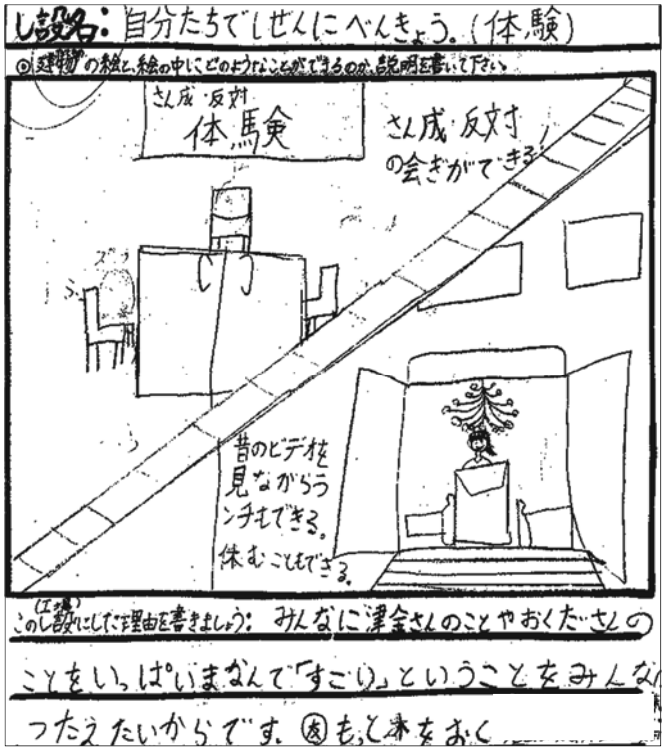


【資料 9】児童Gが友達に発表している様子

(11)　ワークシートと話し合い活動のつながり

ワークシート内に発表原稿を設けたり，友達の意見を取り入れたりする活動で，つながりをもたせ，授業が円滑に展開できたと言える。

また，児童Ｈが考えた施設は，第５時で行った「賛成・反対体験」という企画書を基にして記述されていた。



【資料 10】児童Hが記述した企画書

これは，今まで学んだことを“伝えたい”という思いが記述されていると考える。また，【資料 10】児童Ｈは自分の意見に友達の意見を取り入れ，より工夫することができた。記述したことを友達に伝え，友達からアドバイスをもらい，自分の意見を友達と共に深める姿が観察できた。

しかし，友達の意見を聞くことはできたが，「僕はもうこれで満足だから」「私の意見は完璧」という児童もいた。ワークシートに友達の企画書の良いところを記述させたり，良いところを全体で共有したりすることで，より伝える力や聞く力を伸ばすことができたと考える。

Ⅵ　研究結果と考察

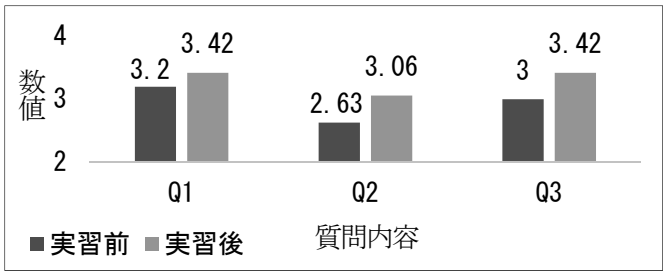
教師力向上実習Ⅱの前後，配属された学級の児童に，社会科に関するアンケート[12]を実施し，集計した。教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫と児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫の二点から，アンケートの結果を関連させ考察する。

教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫 児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

１　教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

Q1	自分の考えをワークシートに書くことができるか
Q2	資料から感じたことをワークシートに書くことができるか
Q3	資料をもとに，自分の考えをもつことができるか

【表 7】アンケート質問内容①



【表 8】アンケート結果①

(1) 教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの結果

まず，【表 8】アンケート結果①のグラフから，Q1 は 0.22 ポイント，Q2 は 0.43 ポイント，Q3 は 0.42 ポイント上がた。

(2) 教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの考察

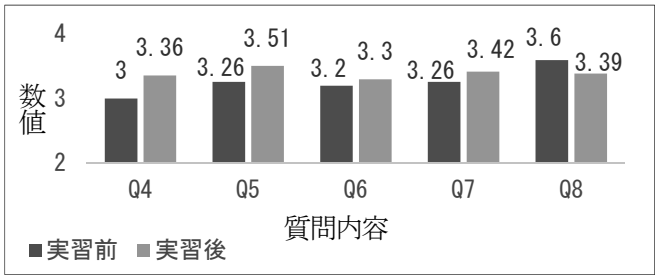
今回のワークシートの工夫は，“学び合い，高め合う協同学習”において，有効な手段であることを証明できた。授業の資料とワークシートにつながりをもたせたことにより，自分の意見や考えを，文章にして記述することができたと考える。また，話し合い活動を授業の最後に振り返り，記述させることで，自分の意見を見つめ直したり，友達と話し合ったことを振り返ったりする記述が見受けられた。

始めは自分の意見が書けなかった児童も，絵の様子や文章資料から，当時の人の気持ちによりそう様子や思いを巡らせることができた。また，意見の記述は，文章だけではなく，絵を用いることで児童の表現の幅をひろげることができたと考える。

２　児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

Q4	考えや理由をはっきりさせて発表することができるか
Q5	自分の考えが友達に認められたことがあるか
Q6	友達の意見と自分の意見を比べて聞くことができるか
Q7	友達の意見を聞いて自分の考えを見直したことがあるか
Q8	友達と話し合うことは好きか

【表 9】アンケート質問内容②



【表 10】アンケート結果②

(1) 児童の考えを高め合う話し合い活動の結果

【表 10】のアンケート結果②から，児童の考えを高め合う話し合い活動は，資料から読み取った意見や考えをワークシートに自分の意見を書かせた後の段階である。それを踏まえると，Q4 は 0.36 ポイント，Q5 は 0.25 ポイント，Q6 は 0.1 ポイント，Q7 は 0.16 ポイント上がった。

しかし Q8 の“友達と話し合うことは好きか”の質問に対し，0.21 ポイント下がった。

⑵ 児童の考えを高め合う話し合い活動の考察

自分の意見を発表した後，友達からの共感の言葉やリアクションがあることで，意見の受容感を高めることができたと考える。また，自分の意見を話すだけでなく，相手の意見を聞いたり，自分の意見と比べたりすることで，より自分の意見を深める活動ができたと考える。そして，一人で考える場，二人で考える場，四人で考える場を設けることにより，児童の思考が途切れない話し合い活動ができたと考える。

しかし，“友達と話し合うことは好きか”という質問は，数値が下がってしまった。これは，話し合いが円滑に進まなかったグループがあったからだと考える。その原因として，ペア・グループの話し合い活動では，話し合いに深まりのあるペア（グループ）と，話し合いの最中に揉めてしまうペア（グループ）と両極端であった。このことから，話し合いのメンバーの組み合わせを工夫することや，話し合うポイントを絞ったり広げたりする工夫が必要であったと考える。

Ⅶ　実践のまとめ

１　本研究における成果

本研究の成果は，教材の良さを生かしたワークシートの工夫を行うことで，児童の多様な考えを引き出し，意見を記述させることができたことと，児童の考えを高め合う話し合い活動により，意見交流が活発にできたことである。

さらに，ワークシートと話し合い活動の二つをつながり合わせることにより，根拠をもって自分の意見を発表することができたり，自分の考えを表現した後に振り返ったり，話し合い活動で得た友達の意見と自分の意見を比べたりする姿が観察できた。この姿から，ワークシートと話し合い活動につながりをもたせることで，自分の意見を伝える力や友達の意見を聞く力を伸ばすことができ，学び合い高め合う児童に迫ることができた。

２　本研究における課題

⑴ 教材研究・教材の良さを生かしたワークシートの工夫

遠い過去の先人を教材に取り上げたため，さまざまな資料を活用し，ワークシートと教材のつながりを意識して作成した。しかし，資料自体が児童の実態と合わなかったり，過去の偉人を十分に想起させることができなかったりした。より教材を吟味して児童に適切な資料を提示したり，教材とワークシートのつながりを再確認したりする必要があったと考える。

また，ワークシートの分量が多く，児童にワークシートを記述させる時間が長くなってしまった。ワークシートを作成する段階で，児童に“どこにどれだけ記述させるのか”をさらに推敲する必要があったと考える。

⑵ 児童の考えを高め合う話し合い活動の工夫

児童の考えを高め合う話し合い活動を取り入れることで，自分の意見を伝え，友達の意見を聞く活動を行った。しかし，グループによって，友達と表面上で意見を言い合うだけになる点が課題である。様々な意見に対して反応は示すが，反発，共感している姿は，多くはない。児童の感想を考察しても，友達の意見を書いている児童もいる反面，友達の意見に興味がなく，自分の意見が一番正しいと考えている児童も少なからずいた。

今後は，自分以外の意見をより認めたり，指摘し合ったり，深め合ったりする話し合い活動の在り方を探ることが，課題である。

３　ワークシートと話し合い活動の工夫のつながり

自分の意見をもち，話し合い活動を踏まえて自分の意見を友達と比べたり，自分の意見を見つめ直したりする軌跡として，ワークシートを用いた。しかし，ワークシートと話し合い活動のつながりを通して，自分の意見を替えたり，友達の意見を踏まえて新しい意見を生み出したりする力は十分高まっていないと考える。今後は，自分が選択した役や立場に立ち，同じ意見同士で考えを深め合うことで，新たな意見を生み出したり，考えを深化させたりすることができるようなグルーピングの工夫を行っていきたいと考える。グループで考えた意見を学級で共有することができれば，グループの仲間意識を高めることができたと考える。そして，石井順治氏が主張するように，“聞く”から“聴く”児童へと変容させるようにしていくことが今後の課題である。

おわりに―今後の課題―

本研究は小学校社会科の授業において，ワークシートと話し合い活動の工夫を通し，学び合い高め合う授業づくりの実践を行った。成果もあったが，課題も見つかった。その課題に対して，真摯に向き合っていきたい。また，私の研究が，未来の自分や後輩，児童の成長に少しでもつながることができれば幸いである。

【追記】
本研究における実践は，連携協力校である名古屋市立A小学校にて行わせていただきました。A小学校では，約一年半お世話になりご多忙の中，校長先生，教頭先生，教務主任，学級担任の先生をはじめとした，多くの先生方に温かく丁寧なご指導・ご助言をいただきました。本研究は，A小学校の諸先生方の存在なくして成立しませんでした。実習中は励ましのお言葉など掛けていただき，深く感謝申し上げます。
最後にはなりましたが，学校サポーター活動や実習，研究のご指導を手厚くご教授いただきました山内先生，大島先生，実習Ⅲでご指導ただいた志水先生，初め，時に厳しく温かく，ご指導・ご助言いただきましたすべての教職大学院の先生方に，心から感謝申し上げます。三年間ありがとうございました。

【引用文献・ＨＰ】
1　経済産業省産業人材参事官室「『社会人基礎力に関する研究会』中間取りまとめ」（平成18年２月）http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/
2　「中央答申会議初等中等教育分科会教育課程部会(第２７回)諸事録配布資料」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/05111603/004.htm
3　「社会科よい授業わるい授業」山田勉・松本健，国土社，1988，ｐ2−3
4　協同学習入門―基本の理解と51の工夫―」杉江修治，ナカニシヤ出版，2011，ｐ20
5　「『学び合う学び』が深まるとき」石田順治，世織書房，2012，ｐ4
6　「『学び合う学び』が深まるとき」石田順治，世織書房，2012，ｐ14
7　協同学習入門―基本の理解と51の工夫―」杉江修治，2011，ｐ94
8　豆田　幸彦　（佐賀県教育センター所員）http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h22/09_seikatu/work-sheet.htm
9　2015年後期授業「指導技術力の開発」より中妻雅彦先生と小幡肇先生の授業内での小幡肇先生の発言
10　答え方は１～４に丸を付ける方式をとった。そう思う質問ほど４に丸を付け，そう思わない質問は１を付ける。最高値は４，最低値は１。
11　授業実践①では，33人中３人欠席したため，30人が全員であった。
12　年度初め(引用10)と同様のアンケートを行った。